

投資事業評価調書 (新規)

課室名	砂防課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	砂防課長 西川 昌一 (林 任輝)	内線	4459 (4465)
-----	-----	---------------------	----------------------	----	----------------

事業種目	砂防事業	事業名	事業区間	総事業費 (内用地補償費)	億円
		通常砂防事業 えたに江谷川	篠山市 たつがね立金		約1.6 (約14百万円)
所在地				着工予定年度	完成予定年度
篠山市 立金				H14年度	H16年度

事業目的	事業内容
土石流災害対策 ・土石流危険渓流に該当し、流域の荒廃が著しく土砂災害の危険性が高まっているため、堰堤工を設置して地域住民の人命・財産を保全する。	・砂防堰堤工 1基 (H=9.0m, L=50m)

評価視点	
(1)必要性 安全・安心	・江谷川は土石流危険渓流である。 ・流域の荒廃は著しいが、砂防設備は未設置である。 ・保全対象：人家＝7戸、公共施設＝公民館、県道市野々西野々線、市道 ・平成8年8月の豪雨により流域内の荒廃が進行しており、土砂災害の危険性が高い。
地域の活性化	・砂防堰堤工事により土砂災害の危険性が軽減され、下流域の有効な土地利用が図れるようになる。
快適性・ゆとり	・堰堤工の設置により土石流を止め、下流域への土砂氾濫を防止することにより安全で快適な生活空間を提供する。
その他	・地元からの事業化への要望が強く、砂災害に対する防災意識が高い。 ・山村振興指定地域に該当し、砂防堰堤工の整備により地域間格差の是正に寄与する。
(2)有効性・効率性 有効性	・人命及び財産(人家7戸)と公民館が保全されるので、事業実施による投資効果は大きい。
効率性	・地元からの要望が強く、市等の協力体制が有るので円滑な事業執行が可能である。
(3)環境適合性	・事業に伴う地形の改変を最小限にとどめ、工事による法面については緑化を図るなど環境保全に努める。
(4)優先性	・土石流の想定被害区域には人家7戸のほか公民館、(一)市野々西野々線及び市道がある。 ・流域の状況は、渓流の浸食が進み荒廃が著しく、荒廃度が10%を越えており、土砂災害の危険性が高い。 ・このため、立金地区の人命・財産を保全するために早急な対策が必要である。

評価の結果	着手妥当	左の理由	上記内容により着手が妥当と認められた。
-------	------	------	---------------------